

1992年8月CR



ヒデ川島が金久選手挑む さて、トップはどっちだ!?

挑戦者は決まった。いよいよヒデ川島が金久選手に挑む。文字通りの決勝を控え、両者に30分間の練習時間を与えたわけだが、勝手が違うのかコーナーの度にスピントアウトを喫する金久選手。大きな口を叩いた手前、後には引けない金久選手。しかし、さすがである。10分を過ぎた辺りから着実にラップを重ねられるようになってきた。タイムトライアルでも、当初の7秒台から徐々にアップ。最終的には5秒36まで上ってきた。「もう5分あれば4秒台やったなあ。せやけど、チャーリー小松と直キチ君はヘタクソやけど、ヒデ川島はホンマ、うまいなあ。本当のマシンに乗ってもいけるんちゃうか」と、敗者のキズをえぐるコメントを残した金久選手だった。

さて、決勝。25ラップ勝負。ルールは予選と同じだ。マシンは、ヒデ川島がフェラーリ642、金久選手がマクラーレンMP4/6。ヒデ川島によると、マシンによってもストレート向き、コーナーに強いと性格が分かれているそうだ。ヒデ川島はコーナーに強いフェラーリ642、金久選手は「何でもエエ」と対抗のマクラーレンMP4/6をチョイスしたわけだ。

PM8:00、敗者7名が見守る中、決勝はスタートされた。しかし、さすがだ。10ラップ辺りまでは、テール・トゥ・ノーズの好バトルを演じる両者。敗者7名の観客も喰い入るように見ている。が、11ラップから金久選手が徐々に引き離しにかかり、16ラップには遂に、半周のアドバンテージを得るに至った。と、その時、第1コーナーから第2コーナーにかかるゆるやかなアーチ部で、フェラーリ642はあっけなくコースアウト。オーバースピードがたたったのであろう。その瞬間、金久選手の勝利が決まった。ほっと胸をなでおろし「あー、面目保てた。よかったあー!!」と、金久選手。

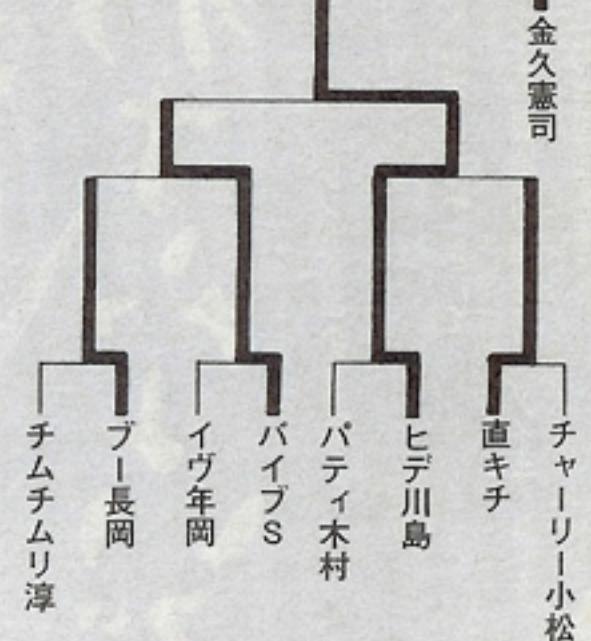
「僕にテールを見せつけたのは、金久選手が初めてです。さすがです。コーナーでのアクセルワークが鋭いですね。今度は本当のサーキットで挑戦でもしてみます」とは、敗者ながら健闘したヒデ川島のコメントだ。

というわけで、「さして勝負、HOスロットレーシング 第1回大会」は見事、金久選手の優勝という結果に終わった。レース後、誰もが口を揃えて言った台詞「第2回大会はいつや!?」という言葉に、HOスロットレーシングのおもしろさが、皆にも理解して頂けるはずだ。その後、夜中の1時まで、会社に男9人の歓喜の声が響いていたことをつけ加えておこう。

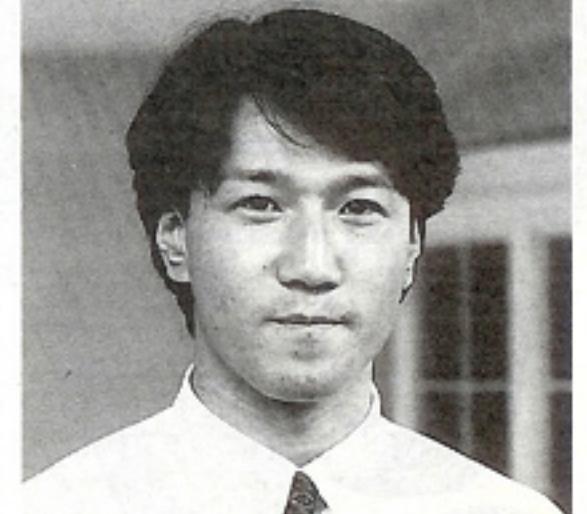
HOスロットレーシング
さして勝負、レース結果

金久憲司

金久憲司



●金久憲司選手のコメント



おもろい、こんなおもろいとは。それに実際のレースとやらなアカンことはほとんど同じやし、結構、のめり込んでしまった。何とか今日は面目を保ったけど、ヒデ川島には今度は負けるかもしれない。ポイントは直線からコーナーに入る時。ブレーキングのタイミングとちやうかな。限界を見つけて、スレスレで走らな勝てへんなあ。今度はチューニングクラスもやってみたら。俺もマシン買って、せこせこチューニングしてみるわ。ま、次回も軽く頂きますけどねえ

商品協力：(株)日本レーシングシステムズ
〒111 東京都台東区駒形2-6-4 ☎03-3842-8901



バイブS

〈予選準優勝、タイムトライアル5秒37〉

性格と同じ、ネチッコイ、シコシコ走法がよかったみたいやね。ヒデ川島は意外にネチッコイ。明日からの仕事、覚えとけよ、お前。



チムチムリ淳

〈予選1回戦敗退、タイムトライアル5秒66〉

あー悔やしー。興奮しすぎて鼻血がでそうや。何でCRの連中に負けんなアカンねや。今日は帰らへんぞ。もう1回勝負せえ!!



直キチ

〈予選2回戦敗退、タイムトライアル0秒00〉

ま、とにかくチャーリー小松には勝ったな。ゼロヨン勝負!? 甘えとったらアカンぞ、チャーリー。俺に勝ってから、しゃべれよホンマ。



ブー長岡

〈予選2回戦敗退、タイムトライアル5秒05〉

タイムトライアルが実力を証明したんとちやう。次回からは改造クラスも設けてやりたいね。優勝への手応えは、感じてます。ガンバーッ。